

1 1月7日から9日間の旅に生徒3名と教員1名で参加しました。生徒は皆初めての海外旅行でドキドキの入国審査を経てカンボジアの地に足を踏み入れました。

1 1月8日は、コンボンチャム県チャバアムパウ小学校で本校が寄贈した井戸の贈呈式に参加しました。本校では月に2度ほどマドレーヌを焼いて生徒や職員に販売しています。その他学校祭やチャリティーコンサート会場などでも販売し、その売り上げ金を21世紀のカンボジアを支援する会に送り、井戸を寄贈する活動を12年間行っています。これまで11基の井戸をカンボジアに寄贈してきましたが実際に見るのは初めてで、生徒は校長先生から感謝状を直接受け取った時に自分たちがやっている活動の大きさを感じ、子どもたちが笑顔で井戸の水を使っているのを見るときはもっと頑張りたいと思ったと話していました。また井戸水で2人の子どもの洗髪をして、本校生徒が女の子の髪を結んであげると毛の量が少ないことに気づきました。それは栄養失調だからと聞いて悲しくなると話していました。

1 1月9日はプノンペン市内観光をしました。トゥールスレン博物館、キリングフィールド、国立博物館を見学しました。生徒は「ポル・ポト政権時代の悲惨な出来事を学び、胸が引き裂かれるほどの苦しみと悲しみと衝撃が広がった。生還者の方がいましたが、その表情の明るさに驚きを感じたが大量虐殺の記憶を背負って生きるのはどれほど辛いのだろうと思った。あのようなことを二度と繰り返させないためには、実際に現地で見えてきた私たちが世に伝えて行かなくてはならない。カンボジアに対する見方が変わった」と感想を話しています。

1 1月10日は、夢ホーム訪問、スラム街での衣類配布を手伝いました。スラム街でもスマホを使っている人もいたことは驚きで生徒は、「衣類を手渡すと喜んでくれるのが伝わってくるから配るのも楽しくて、人のために何かが出来るといいなあと思えて思えました。またこの人たちのために自分はまだもっと何か出来ないかを考えるきっかけにもなった。」と感想を話していました。

1 1月11日は、3人の里子訪問をしました。1人目の家はこれが住まいなのかと思うような貧しい家でしたが子どもたちはみんな明るく笑顔なのが印象的でした。

1 1月12日からシェムリアップに行きアンコールワットを観光しました。プノンペンとは違い観光地として整備されていて、世界中から観光客が来ていました。遺跡の入

り口の看板に日本の国旗とカンボジアの国旗がついた説明文があったり、遺跡の修復には学生が行っているなど初めて知ることがありました。

参加した3名の生徒は「今回の訪問で交流することの意義を改めて感じました。お金を送って井戸を寄贈するだけではなくカンボジアの子どもたちのキラキラした純粋な笑顔をみたり、里子訪問をして実際の生活に触れることによって、置かれた環境にとらわれずに真っ直ぐに生きるカンボジアの子どもたちに接したり、滞在して不便さを感じたりしたことで、日本にある「当たり前」は、決して世界の「当たり前」ではないことに気づき、今の自分たちが置かれている環境に感謝するきっかけとなりました。また、人と人との繋がり的重要性も感じました。「カンボジアに行ったことで現地の人やカンボジアを支援する会の方々に会うことが出来ました。その人たちと出会えたこともまた私たちにとってかけがえのないものとなりました。」と感想を話しています。

1人1人がカンボジアを訪問して多くのことを学び、考え、感じることができました。これからの人生を変えるくらいの貴重な体験になったことは間違いありません。